

アラブ民衆・情熱の歴史フォーラム 2012

花をむしり取ることはできても、春が来るのを止めることはできない。(ライラ・ハリド)

主催 ライラ・ハリド来日記念交流実行全国委員会・西部講堂連絡協議会

日時 2012.6.3 PM1:00～5:00

場所 京都大学西部講堂

【本フォーラムの趣旨及び提案】

2011年より現在に至る中東各国における民衆の革命は、単に民主化要求のみならず、政治・経済・文化など広い範囲にわたる民衆の側からの改革の提起であり、前世紀以来の中東地域の歴史からすると画期的な現象を意味するものである。それゆえ、様々な観測が飛び交う中、長きにわたって、パレスチナ民衆とともに新しい国家建設を目指してきた女性同盟議長ライラ・ハリドさんを迎えて、まさしく現場からの報告を聞くことは我々にとって貴重な体験となる。欧米マスメディアによる中東事情報道は、残念にも未だに西欧デモクラシーの観点から偏狭な民主化要求が巻き起こっているとの分析に長く支えられて来ていたので、極東の我々には真実を知る機会が意図的に狭められていたとの見解が果たして事実なのか、またそれは誰の意図によるものなのか。

ここ、京都の地において、遠くて近い真実の『中東の春』を実感し共有する機会が持てること、主催者一同の喜びはひとしおであり、また多くの皆さんと分かち合いたいと願うところである。

特別講演: ライラ・ハリド (Leila Kahled) パレスチナ民族評議会議員・同女性同盟議長
『今、アラブで何が起こっており、私たちは何をしようとしているか?!』

討論参加ゲスト: 板垣雄三 (東京大学名誉教授)・鵜飼哲 (一橋大学教授)・足立正生 (映画監督・通訳コーディネーター)

ウェルカム・ライブ: 頭脳警察・PANTA(ライラのバラードほか)

招請団体・世話人: ライラ・ハリドさん交流実行全国委員会・新開純也・大下敦史・早川義輝

賛同人: 天野博・森本忠紀・西浦隆男・杉山廣行・高橋幸子・北野ゆり・寺田道男

参加費: フォーラムのみ 1000円、ライラさん懇親会 3000円～

連絡先: 実行委員会京都担当: ナパーム田所 (090-8162-9566) 530memorial@gmail.com



ライラ・ハリド

1944年、ハイファ生まれ。
1947年に故郷を追われて
ベイルートに移住。以後はPFLP
の活動家としてパレスチナ建国に
従事する。三度目の来日となる。



板垣雄三

1931年、東京生まれ。
東大東洋文化研究所名誉教授ほか。
イスラム・アラブ世界についての
著書多数。日本中東学会会長など
歴任する第一人者。



鵜飼哲

1955年東京生まれ。一橋大学
教授、仏文・仏思想史。
ジャック・デリダに師事した後、
独自の精神世界を切り開こうと
中東問題などにも積極的な発言
をリリース。



足立正生

1939年、福岡県生まれ。
日大芸術学部にて映画芸術を实践。
学生時代より話題作を連発し、独自の
「風景論」を展開。若松孝二との
共作ほか作品多数。70年代にアラブ
へと旅立ち、新たな地平を模索。